

平成28年度 事業報告書

平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人アジアの誇り・プレアビヒア日本協会

1、事業の成果

当協会は昨年度を「プレアビヒア元年」と位置づけ、本格的な開発事業に取り組んだ。本年度はその2年目として著しい事業発展を目指し、大きな成果を上げた。この背景には、世界遺産プレアビヒア寺院とその周辺をめぐる環境が、2012年7月タイ・カンボジア両軍撤退以来、平穏な状態が続いていることにある。また、2014年12月の日本外務省による渡航情報改訂によってカンボジア全域と同ランクとなったことを受けて、協会関係者や傘下学生隊の渡航が容易になったことも見逃せない。

さらに、千代田区内に設けた事務所は連絡事務所としての機能のみならず、各種会議に利用され、協会活動の中心として重要性を増しつつあることにも事業発展の要因が見られる。

今年度の事業展開で重要な資金となったのは、一般財団法人地球文化産業研究所「愛・地球博成果継承発展助成事業」（以下「愛・地球博」）と三菱UFJ国際財団からの助成金である。また、国土緑化推進機構からの助成金は継続されており、これらの事業展開の中で、エコ村地区農民をタイ国Harmony Life Organic Farm（以下「大賀農場」）へ研修団として派遣することができ、大きな成果を上げた。同時に、カンボジア政府機構のNational Authority for Preah Vihear（以下「オーソリティー」）幹部を日本に招聘することができた。これらの活動によって、当協会と地域住民やオーソリティーとの連携が将来に渡って確保されたものと確信する。また、地域人材開発として行われた観光開発関連の教材開発事業は、試験的事業ではあったが、地域住民や教育関係者、オーソリティーから高い評価を受け、今後の発展が期待される。しかし、残念なことは「愛・地球博成果継承発展助成事業」自体が終了したことである。一方、三菱UFJ国際財団は学生隊の報告会に関係者を派遣し、当協会と傘下学生隊の事業を高く評価するコメントを残し、次年度の助成増額を約束するなど、広く当協会の活動をアピールすることができた。

ところで、本年度の活動で最も重要なことは、JICAと外務省国際協力局民間援助連携室（NPO連携課）との交渉を通じて、カンボジア国内に当協会傘下の現地NGO法人設立への動きが本格化したことである。すでにほぼ設立準備は完了し、新年度早々にも設立される運びである。この動きを受けて、JICAをはじめとした諸機関・財団との協議を推進し、活動の裏付けとなる資金を得て、プレアビヒア開発が著しく進展することが期待される。その基礎を本年度の活動において構築することができた。

ただし、長く懸案となってきた活動推進のための現地駐在員の派遣は未だ実現していない。しかし、現地での当協会活動協力者は一段と厚みを増しており、これら協会関係者が現地活動の中心となり、将来の現地スタッフとして育ちつつある。

さらに、2016年秋、当協会理事長森田徳忠氏は当協会のこれまでの活動を含むカンボジア王国への貢献が高く評価され、勲章を受章したことは当協会にとって特記すべきことである。

以下、具体的な活動状況を報告する。

（1）植樹活動

6年目となる植樹活動は、エコパークを中心に着実に成果を上げつつある。やる気元気クリニック院長の寄贈による井戸は開発の重要な起点となっている。

（2）農村支援活動

大賀農場への研修に参加した農民が中心となってエコパークは地域のパイロットファームとしての役割を強めつつある。また、農民の自立、とくに女性や子ども達が豊かに暮らせるような農村支援活動として立案し、愛・地球博成果継承財団から助成を受けた「プレアビヒア地域の観光セクター人材開発」事業は大きな成果をあげ、さらなる発展が期待されている。

（3）教育支援活動

今年度、第14次隊（2016年8月～9月）と第15次隊（2017年2月）学生隊を派遣した。本年度はプノンペンからの学生や隣国ベトナム、ホーチミン市からの学生も加わり、国際色を強めつつある。昨年高い評価を得た「地域の美化活動」は現地小学生とともに継続実施され、重要な活動として定着しつつある。

（4）会員増強活動

会員増強活動と当協会のイメージアップのために、HP担当理事を置き、HP更新を積極的に行っていくこととなった。また、会員増加を目指すために、準正会員を設定する方向も決定され、次年度早々に制度化する準備が進んだ。

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
アジア地域の遺跡周辺自然環境保全、修復事業	遺跡周辺整備 (遺跡周辺道路の美化活動)	2016年8月 2017年2月	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺道路、西パライ周辺	300人	住民45,000人、観光客300,000人/年	425
	環境保全地域と開発推進地域の共存に関する研究と協議 (コンセプト作成、提案協議、現地調査)	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	20人	住民45,000人、観光客300,000人/年	378
植林、植樹、苗木の育成および事前調査事業	植林 (エコパークを中心とした植林モデル地区作り)	年間	カンボジア国プレアビヒアエコパーク、東京法人事務所	200人	住民45,000人	1130
地域住民の生活向上と自立のための人材教育、職能訓練、農業支援事業	農村支援とくに女性・子どもの支援活動「プレアビヒア地域観光セクター人材開発」計画の試験実施、地域住民勉強会	2017年2月	カンボジア国プレアビヒアエコパークとその周辺、東京法人事務所	60人	住民45,000人	2215
遺跡並びに周辺地域の観光資源開発支援事業	農村支援とくに女性・子どもの支援活動「プレアビヒア地域観光セクター人材開発」事業によるエコツアリズム開発 宿泊設備の整備のサンプル紹介	年間	カンボジア国プレアビヒアエコ村地域、東京法人事務所	60人	住民45,000人、滞在者3,000人/年 観光客300,000人/年	3674
	観光プログラム開発 エコツアリズム計画の提案 ヘリテージツアー計画の提案	年間	カンボジア国プレアビヒアエコ村地域、東京法人事務所	60人	観光客300,000人/年 20,000人/年間(雇用促進受益者)	1733
子どもたちのための教育支援事業	学生隊による教育支援活動(文化遺産・環境保全教育) 芸術教育(美術・音楽)を通じた郷土を愛する気持ちの醸成	2016年8月 2017年2月	カンボジア国プレアビヒア地区小学校	800人	子どもたち800人	522

日本のNGOと海外のNGOネットワーク調整及び交流事業	日本及び海外他NGOとのネットワーク作り カンボジア都市部学生、隣国（ベトナム）学生との交流事業	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺	40人	NGO関係者 1,000人 カンボジア青年、ベトナム青年50人	0
遺跡全般に係る広報事業	広報活動 ホームページ更新 学生報告会	2016年 7月 2016年 8月	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所、	45人	関心ある一般市民1,000人	52

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
物品販売事業	なし	なし	なし	なし	0
機関紙等への広告掲載事業	なし	なし	なし	なし	0